

ハンドボール

特集

第39回全国中学校大会

第15回ジャパンオープントーナメント

第37回全国高等専門学校大会

11 5

NOV.2010・No.514



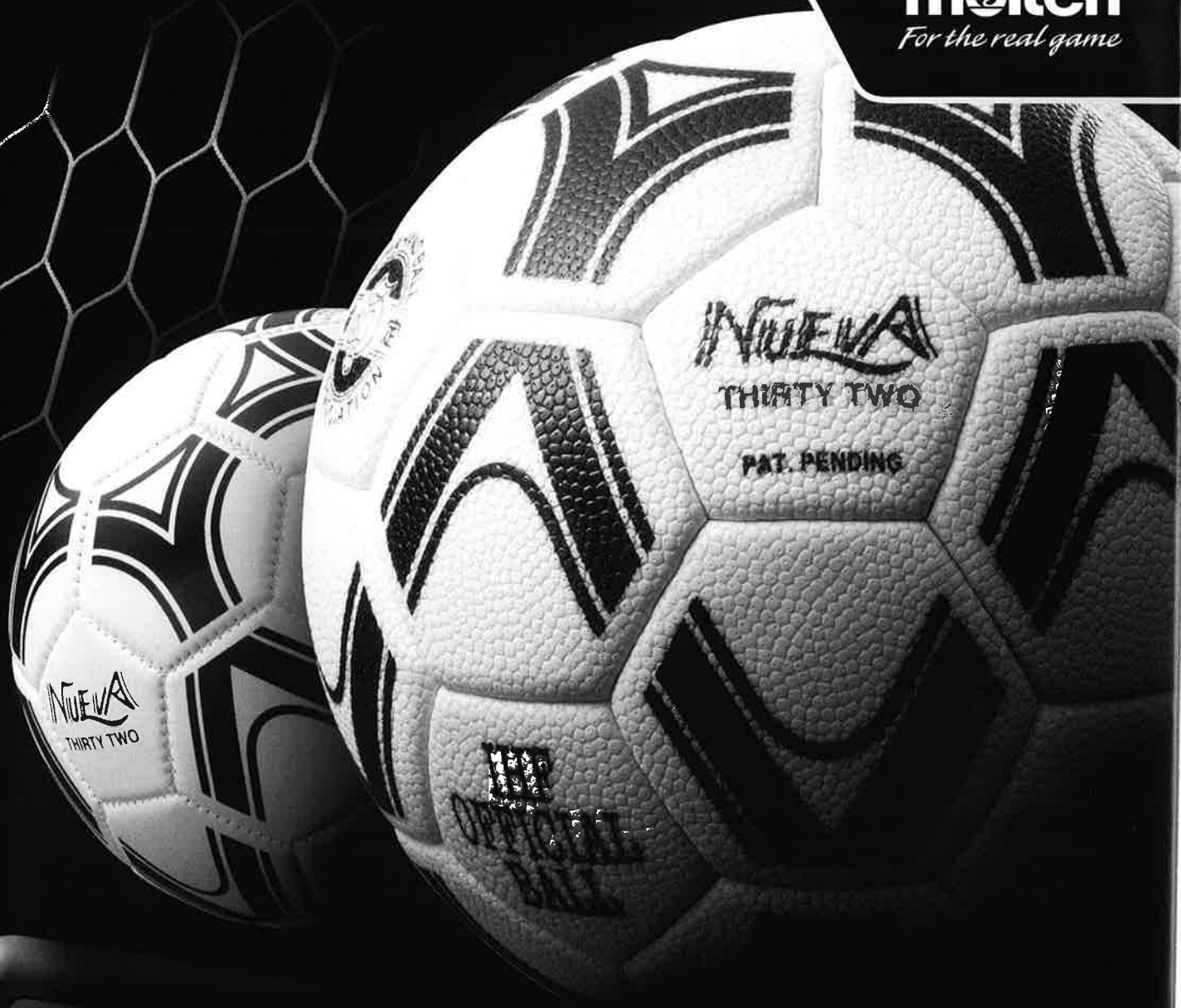
[表紙写真：第39回全国中学校大会、女子優勝の愛知・平針中学校・田中実里子選手・写真提供：スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ **国際公認球** | **検定球**
縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ **国際公認球** | **検定球**
縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

継続的な五輪出場を 目指した強化



(財)日本ハンドボール協会強化本部長 西窪 勝広

現在、日本ハンドボール界にとって厳しい状況が続いている。男子はソウルオリンピック、女子はモントリオールオリンピックを最後にオリンピック出場の手を失った。是が非でもロンドンオリンピックの出場権を獲得し日本のハンドボールに世界の風を送り込みたい。

オリンピックに出場する為にはアジアを勝ち抜くことが一番の条件であるが、アジアを突破するには世界で上位に食い込む實力が必要なのは言うまでもない。其の為にこの10年間にわたり長期的な視野に立ち強化策を行ってきた。特にタレント発掘と一貫指導において様々な試みを講じた。ロンドンオリンピック出場を目指す今、この10年間での試みを基礎とし強化、医事、情報科学の各セクションが有機的に連携した施策を推進することにより、オリンピック出場という結果に結び付けたい。

オリンピック出場は非常に価値があることは十分に認識しているし、真の意味での競技力向上の価値があるものと確信している。日本が継続的にオリンピックに出場する為には、日本代表チームに継続的に高い競技力を有する選手を供給しなければならない。其の為には各カテゴリーの充実が必須である。

2000年に設立したナショナルトレーニングシステム(NTS)は中学、高校の有望選手を対象にタレント発掘と指導指針の一貫化を目的とした事業であり、これまで述べ8,580名の選手がNTSを経験し、そこで発掘された有望選手が現在の国内リーグの主力となっている。また、2008年に発足したJHAジュニアアカデミーでは、NTSで発掘したタレントの更なる強化と指導者育成を目的に、極めて競技力の高い高校生、大学生を対象に継続的なトレーニングを行い、日本代表チームに選手を供給できる実績も出てきている。

ロンドンオリンピック出場が現段階では最大の目的ではあるが、継続的に能力の高い選手を発掘し、育成し、トップ代表に選手を供給するシステムを構築していく事が重点強化策である。

また、一貫指導システムで育成した選手を日本代表チームでピーキングさせる仕組みにも注力していく事が大切である。

「アジアNo.1に返り咲く」を目標におき、「全てのベクトルを強化に向ける」という基本方針のもと活動する上で、指導者、人材の充実も不可欠である。NTSによる選手発掘、JHAジュニアアカデミーでの競技者育成プログラムに基づいた一貫指導で継続的強化を進めると共に、強化、医事、情報科学が連携を基礎とした強化政策を実施していき、2012年のロンドンオリンピック出場とその後のオリンピックに継続的に出場できる競技力向上を目指し強化に努めてまいります。

皆様方のご協力なくしては実現できません。何卒宜しくお願い申し上げます。

第39回 全国中学校 ハンドボール大会

男女とも名古屋市立平針中学校が優勝！

*男女アベック優勝は、第11回大会での芦城中（石川県）以来2度目の快挙！

【最終順位】

〈男子〉

優勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）

準優勝：守谷市立けやき台中学校（茨城県）

3位：大阪体育大学附属中学校（大阪府）
長崎市立日吉中学校（長崎県）

〈女子〉

優勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）

準優勝：氷見市立西條中学校（富山県）

3位：高松市立香川第一中学校（香川県）
三郷市立北中学校（埼玉県）



3点共 写真提供：スポーツイベント社



第39回全国中学校ハンドボール大会回顧

第39回全国中学校ハンドボール大会開催委員会 万代和孝

中体連ハンドボール専門委員会の中国ブロック長を務めるようになって4年目、私の地元広島県呉市で第39回全国中学校ハンドボール大会を開催することができました。関係者の皆様のご尽力のおかげだと、ただただ感謝するばかりです。誠にありがとうございました。

呉市は、旧海軍の軍港として栄えた町で、呉海軍工廠が設けられ戦艦大和が建造された町ということで全国からの観光客も後を絶ちません。その戦艦大和が建造されたドックは、今では地元IHI呉造船所になっていて、私が住む宮原の町からすぐ眼前に見渡すことができます。このように戦後の呉市は、海上自衛隊、そして造船、鉄鋼の町として発展しました。かつて日本リーグでも活躍し、全日本総合でも日本一になった日新製鋼ハンドボールチームがあるのも、ここ呉市です。今大会の女子1・2回戦の会場となったのが、この日新製鋼体育館でした。

広島県は、今も日本のトップチームである湧永製菓（ワクナガレオリック）、広島メイプルレッズ、そして日新製鋼と、強い実業団チームを持っており、ハンドボール熱そしてハンドボールへの関心度も高い土地柄です。これら実業団チームの選手の皆さんの指導や、地元広島県ハンドボール協会や呉ハンドボール協会の協力・指導で、ジュニア層の普及強化も進めています。結果を出すにはまだ時間がかかりそうです。

今回、中国ブロック代表は、男女とも山口県・岡山県でした。男子の第一代表山口県岩国中学校、女子の第一代表岡山県琴浦中学校はともに3回戦敗退でベスト8どまりでしたが、岩国中学校は優勝した愛知県平針中学校とは7点差でしたが、前半はリードして折り返し、最後まで競った好ゲームでした。岩国中学校の選手一人ひとりの身体能力の高さ、技術力は全国でもトップクラスであることを印象づけた素晴らしい試合でした。試合後の選手たちの涙でうなだれる姿は納得できる

ものでした。琴浦中学校も準優勝の富山県西條中学校と2点差の大接戦でした。琴浦中学校も全国において遜色ない好チームであることを示しました。琴浦中学校は選手のバランスのとれた好チームで、明るく元気なチームカラーも好印象でした。

地元広島県からは、男子がワクナガの地元甲田町の甲田中学校、女子がメイプルの地元広島市の亀山中学校が出場しました。残念ながら両チームとも初戦で敗退しましたが、甲田中学校は北海道の本通中学校と最後まで競って会場を盛り上げました。亀山中学校は、エースの選手が指の怪我でプレーできず、福島県の郡山第一中学校に大差をつけられ、不本意な結果に終わりました。それでも、両チームとも全国大会という晴れの舞台でかけがえのない経験ができたことを誇りに思えるのではないのでしょうか。

さて、地元呉市からは残念ながら出場できませんでした。全国出場を合言葉にこの2年あまり呉ハンドボール協会にも指導していただきながらがんばってきましたが、目標は達成できませんでした。それでも、開会式では私の呉市立昭和北

中学校主将の村上力斗くんが堂々とした態度で、自分の思いを込めてりっぱに生徒代表のあいさつをしました。涙が出る思いでした。さらに、ハンドボール部はもちろん呉市の中学生たちが、生徒役員としてたくさんの場面で大会を支えてくれました。裏方の仕事をする中で、これもかけがえのない経験になったと思います。

呉市にはハンドボール部のある中学校が4校しかなく、今大会を運営するにあたり、呉市中体連の先生方を総動員するくらい協力していただきました。さらに、私の大学時代からの友人たちも積極的に支えてくれ、友のありがたさ、仲間のありがたさをしみじみと感じました。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりご尽力いただきました日本ハンドボール協会・日本中体連・広島県ハンドボール協会・呉ハンドボール協会・広島県中体連・呉市中体連・協賛各位に厚くお礼を申し上げますとともに、次年度開催である京都府大会の成功を祈念いたしまして、今大会の回顧とさせていただきます。ありがとうございました。

男子優勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）

名古屋市立平針中学校男子監督 鳥本 岳志

第39回全国中学校ハンドボール大会において、平針中学校がアベック優勝することができました。日頃からご協力・ご支援いただいている学校関係者の皆様、保護者の皆様、そして連日の猛暑の中、大会運営にたずさわっていただいた役員、関係者の皆様に心より感謝したいと思います。

今年の開催地は広島県でした。選手たちには自分の夢や目標が戦争によって奪われることなく、平和な社会の中でスポーツに打ち込むことができることに感謝してプレーをして欲しいと願い、開会式前日に原爆ドーム・資料館を見学して大会にのぞみました。

このチームは順調にここまで来たわけではなく、挫折を経験しています。春の全国大会に向けての県予選準決勝で滝ノ水中学校に敗れ、全国へ出場することができませんでした。その全国大会では平針中学校女子部が優勝しており、選手たちには様々な思いがあったと思います。ここから本当の意味で新チームがスタートしたと言えるのではないのでしょうか。キャプテンの松田を中心に自分たちに足りないものを徹底的に見つめ直し、「去年に続いて全国大会に出場する」を目標に、「Speedy Handball」をスローガンにし、そしてそれを支える「自主性（状況判断）」「チームワーク（信頼）」「継続（フィジカル）」「バリエーション」「闘争心」の5つのキーワー

ドを意識して日々のトレーニングをおこないました。

さらに、コートの中で自分のプレーに責任をもつことができるよう、普段の生活でも自分で判断して行動ができるようにしようと心がけました。この半年間、コートの中でも、コートを離れた生活でも選手たちは向上心をもって努力しました。それを支える保護者の方々の絶大な協力もあり、選手たちが日に日にたくましくなっていくのを感じることができました。

全国大会では決勝戦のけやき台中学校はもちろん、対戦させていただいたどのチームも自分たちのスタイルを確立しており、何度も劣勢に立たされる場面がありましたが、選手は自分たちがやってきたことを信じてプレーをし続けてくれました。それは、それぞれの選手が置かれた状況を乗り越える力をつけることができた一つの証明だと思っています。

最後になりましたが、私は25年前のこの大会で東陵中の選手として優勝を経験させていただきました。その恩師であり、今大会中も様々なアドバイスをいただいた本谷先生、南山大でご指導いただいた日新製鋼の吹上コーチ、桜台高でご指導いただいた故稲石先生、いつも切磋琢磨している名古屋・愛知の先生方、名塚中・汐路中・平針中で関わってきた部員たち、そして、いつも支えてくれている家族にあらためて感謝したいと思います。

ありがとうございました。

名古屋市立平針中学校男子主将 松田 陸

春の全国大会予選、みんなが勝てると思っており、それが落とし穴でした。まったく自分達のプレーができませんでした。精神的な弱さから焦りが出て、いつもできていることができませんでした。春の全国大会への出場が無くなりましたが、そこから僕達の真剣勝負が始まりました。

まず、部活中だけでなく、普段の学校生活から気を引き締めるようにしました。「宿題や提出物の期限を守る」「授業中は積極的に発言する」「学校行事などクラスの先頭に立って行動する」などです。それから練習では、筋力トレーニングや走りこみに力を入れ、得意なチームメイトに引っ張ってもらい、チーム全体の底上げをしました。それによって体力がつき、あたり負けしない、走り負けしないチームができました。戦術についても、お互いに指摘し合い、会話しながら悪

いところを修正しました。卒業した先輩達に相手をしてもらい、フィジカル面やスピード面で勝る相手やさまざまなスタイルへの対応も練習することができました。

そして市総体が始まり、先生からずっと言われている「いつも通り平常心で」という言葉を胸に試合に臨みました。退場者がいたり、連続失点したりなどのピンチはあったけれど、一人一人のやるべきことを集中してやり続けることで結果を出すことができました。こうして、僕達は自分たちのやることに「自信」「自身」をもてるようになってきました。

待ちに待った全国大会の舞台。練習でも全国の決勝でもやることは同じ、いつも通りやるだけ。今までサポートしてもらった先生方や保護者の方々、たくさん相手をしてもらった先輩方などすべての「Hirabari Handball Family」に感謝の気持ちを示す方法として、優勝という最高の報告ができたことを誇りに思います。

女子優勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）

名古屋市立平針中学校女子監督 熊谷 博明

平成22年度全国中学校体育大会、第39回全国中学校ハンドボール大会において優勝できたことを大変うれしく思っています。これもひとえに、ご支援、ご理解をいただきました学校関係者の方々、保護者の方々、愛知県、名古屋市のハンドボール協会、ハンドボールに携わる先生方や指導者の方々のおかげであると深く感謝しております。また、部長として支えていただきました稲垣広和先生、トレーナーの加藤丈晴さんにご支援をいただいたことは言うまでもありません。

春の全国中学生ハンドボール大会で優勝し、生徒たちは、夏の全中でも優勝したいという思いがより一層強くなり、それを目標として4月からの練習がスタートしました。4月の名古屋市春季大会では、優勝はしたものの、生徒たちのポテンシャルの高さを考えると内容に不満の残る大会になりました。また、その後の練習に対する姿勢や取り組み方が春中の優勝がプレッシャーではなく、「慢心」と受け取られるよ

うに感じられることが少なくありませんでした。そうした中で5月の頃は、全中優勝どころか出場することさえも難しいのではないかと本当に思っておりました。私自身は、「慢心」をチーム内から排除させなければという思いが強くなり、厳しさを少しずつ浸透させなければこの子たちは本当にだめになってしまうのではないかという気持ちが大きくなり、練習や試合の中で、厳しさを生徒たちにぶつけたことで、私の気持ちと生徒たちの気持ちのずれが生じ、お互いの意思の疎通を欠いて、重苦しい日々が続きました。「春とは違う夏の険しい山に登るんだ、そのためにどうすればよいのか」を問いながら、昨年6月にチームを揺るがしたけがのこと、夏の大会においての一発勝負の厳しさをことあるごとに説きながら、春中前のみんなが一つになってチャレンジしようとする心を取り戻すことを生徒たちに求めました。6月には、練習試合の反省から生徒たちは、このチームに欠けている部分に気づき始め、それを克服するためにはどうしたらいいのかを考えながら練習しようという、変化が少し見られるようになってきました。私は、7月に入ってから練習や試合で見られるマイナスの部分に対して、一発勝負の怖さを引き合いにして、厳しく生徒たちに接してきました。市大会期間中に行なった高校生とのゲーム形式の練習で、チームが一つにまとまって集中できたときのすごさを実感することができ、名古屋市、愛知県、東海大会と続いた大会で徐々に態勢を整えながら全国大会に臨むことができました。迎えた全国大会、DFからOFへのリズムをつくることを意識させ、最後まであきらめない大住中、まとまりのある宇土鶴城中の試合を突破し、





迎えた準決勝、3年間取り組んできたことを全てはき出すことを目標に、粘り強い攻守の三郷北中を退け、最後の決勝戦は、チーム一丸となって雪辱を期して挑んできた西條中を落ち着いて攻略し、念願の優勝を勝ち取ることができました。

この優勝をご報告させていただいたとき、大変喜んでくださった恩師の小辻壽雄先生（元汐路中監督）と横井保信先生（元中京高校監督）にはまだまだ遠く及びませんが、今後少しでも近づけるように生徒に関わっていきたいと思います。

最後になりましたが、今大会の運営に携わっていただいた大会関係者の皆様、陰で大会を支えてくれた礼儀正しい中学生のみなさん、本当にありがとうございました。

名古屋市立平針中学校女子主将 藤原 真由子

女子初の春夏連覇、そして何より男女揃って優勝できたことを、本当にうれしく思っています。

しかし、私にはそんなすごいことをやり遂げたという達成感ほとんどありません。春の全国大会で優勝した後、目標とするチームがなくなり、練習にも身が入らなくなりました。そんな中で熊谷先生は、練習や練習試合などで内容が伴わなかったり、集中していないと、よく私たちをよく走らせました。私たちは正直、その時は自分たちが楽をすることばかり考えていて、走られる度に不満が募っていました。今考えると、先生は、夏でも2試合走りきれだけのスタミナをつけようとしてくださったのだと思います。

もし、私たちが先生のおっしゃることを素直に受け入れていたなら、もっと強靱なスタミナがついていたかもしれません。また、身が入っていない時は、普段なら圧倒してしまうようなチームに負けてしまうこともありました。負けて悔しいという思いと、全国優勝を経験したチームが身の入った試合ひとつできない、という情けない思いが込み上げてきました。本当にこんな気持ちで練習していいのか、と考えた時に、集中するときは集中してやろうと決めました。だから、自分たちなりに、パスや速攻、ディフェンスなどの精度をより高めていけるような練習をしてきました。その結果、パスミスなどの単純なミスが減り、ディフェンスがよくなると、自然に速攻での得点も増えてきました。私たちはいつも先生に「基本をしっかりやれ」と言われてきました。もっといろいろなプレーを練習したかったけれど、どんなプレーも基本がしっかりできていなければ成功しません。そういう意味で、先生には、本当に感謝しています。

また、家族や大会を運営された方々などたくさんの人たちの支えがあったからこそ、優勝できたのだと思います。と同時に3年間一緒にハンドボールをやってきたみんなにも感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

最後に、女子初の二冠を取らせていただいたので、気持ちを新たに、女子初の三冠を目指して今後がんばっていききたいと思います。



株式会社 **イース**
 本社/〒732-0828
 広島市南区京橋町2-22
 TEL(082)264-3211(代)



暮らしの夢を
 ひろげたい。

時代の流れとともに刻々と変化するお客様ニーズ、数ある商品の中から、常に新しい価値を厳選してお届けするゆめタウンは、流通のエキスパートとして、暮らしのパートナーとして、お客様とともに暮らしの夢をさらにひろげたいと考えています。

もっと大きな明日へ。
 動き続けるゆめタウンです。



戦評

【男子】

▼準決勝

平針中 34 (18 - 14、16 - 13) 27 日吉中

立ち上がり、日吉がエース峰のミドルシュートで先行するが、すかさず平針は小林のミドルシュートで同点とする。日吉は、開始10分間ほど、平針の高いディフェンスを攻めあぐねる。その間に、平針は着実に得点を重ねていき、18分には平針が15対7と大差をつける。しかし、ここから日吉がエース峰と山口を中心に猛反撃を仕掛け、前半を平針の4点差リードで折り返す。

後半も日吉のペースで進み、6分には1点差まで追いつくが、平針・小林のミドルシュートが要所で効果的に決まり、日吉をリズムに乗せず、最後は34対27で平針が勝ち、決勝に進んだ。敗れたとはいえ、日吉は主将・峰を中心としたまとまりのあるチームで、決してあきらめることなく、最後まで中学生らしく、粘り強く戦った姿勢は好感がもてた。

けやき台 31 (11 - 16、20 - 10) 26 大体大附

大体大附のスローオフで試合が開始され、お互い運動量の多いDF、OFが続いたが、2分10秒から大体大附2番のロングシュートが2本決まり、パスカットから速攻で3連取。

けやき台は、大体大附2番にマンツーマンDFをしき、一進一退の攻防となり、8分過ぎから両チームGKの好守もあり、4対4となり、大体大附は6-0から3-2-1の高いプレスDFからカットを狙い、4連続得点で9対4とした。以後、点の取り合いとなり、16対11の5点差で大体大附リードで前半終了。

後半に入って、けやき台は6-0DFと大体大附2番のマンツーマンDFをうまく使い分け、大体大附のパスミス、シュートミスを誘い、速攻で全員よく走り加点した。15分50秒には24対23と逆転。大体大附は完全に攻撃リズムを崩し、攻撃のミスからのけやき台の全員速攻を守りきれずに失点し、そのまま逃げ切られた。結局31対26でけやき台の逆転勝利となった。

▼決勝

平針中 30 (12 - 9、18 - 8) 17 けやき台

準決勝で、春の大会を制した大体大附中に大接戦の末逆転勝利したけやき台中は、その勢いのままに開始早々から2番のステップシュート、また堅いディフェンスからの速攻、さらに2番、3番のミドルシュートなどが立て続けに決まり、7分には7対2と大きくリードした。けやき台中のワンサイドゲームになるかと思われたが、平針中の脚が動き始め、またキーパーの好守もあり、13分から13番、14番、15番

どんなに抑えつけられても、
**誰よりも
高く飛んだら**

この25分×2は俺たちの
空間や——!!

スポーツドラマの名手が贈る、
ハンドボールに燃ける青春と影。
ビッグコミックスピリッツの大人気シリーズ連載!

明日のない空

—Hatsuko Hatachi presents—

最新刊
第2集

日本ハンドボール協会推薦!!
定価/550円(税込)
発行/小学館

インターネットでも購入可! <http://comics.shoekuken.co.jp/> 書店でご希望の単行本が見つからない場合は、お手数ですが店頭でご注文ください。お問い合わせ—お客様相談センターTEL.03-5281-3556

の速攻もさえ、さらにサイドからのシュートも決まってジリジリと追上げた。けやき台中は約16分間単発なシュートが目立ち、僅か1点にとどまり、平針中が逆に12対9とリードして前半を終わった。

後半開始直後、けやき台中の3番が速攻を決め、接戦に持ち込むかには見えなかったが、平針中は前半の勢いが止まらず、堅いディフェンスからの速攻を続けて決め、その後も4番、14番、13番と速攻、ミドルシュート、ポストなどのすばやく多彩な攻撃を繰り返し展開して、着実に加点していった。けやき台中はあせりからパスミス、キヤッチミス、そしてシュートミスを繰り返した。22分、23分に5番が強烈なミドルシュートを決め、追撃態勢に入ったが、すでに遅かった。

試合前の予想を覆すような試合内容となった。最後まで自チームのカラーを出し続けた平針中を讃えたい。

【女子】

▼準決勝

西條中 19 (11 - 6、8 - 12) 18 香川第一中

前半、両チームとも固さの見られるスタートであったが、西條中が5番奥田のカットインなどで3連続得点するも、香川第一中 GK 馬場の好セーブから速攻を連続して得点し、12分には5対3とリードする。しかし、守りに荒さが見られ退場者が出たのをきっかけにリズムを取り戻した西條中が得点を重ね、5点リードし前半終了。

後半は香川第一中の2番谷が強気なプレーで得点し、西條中に食い下がる。西條中は3番北原のカットインなどで追撃をかわし、終了1分前に1点差まで追いつめた香川第一中を振り切り、19対18で逃げ切った。

平針中 23 (9 - 4、14 - 10) 14 三郷北中

三郷北中のスローオフでゲーム開始。前半2分までは互いに固さが目立ち、三郷北中4番海老原のロングシュート、平

針中5番杉浦のサイドシュートにより得点が動き始める。4分、三郷北中のシュート、パスミスから、平針中5番杉浦、6番坂口の速攻が決まる。中盤、三郷北中3番真方、4番海老原のボール回しの展開で攻撃をしかけるが、平針中のかたいDFを崩しきれず、前半9対4で折り返した。

後半、試合開始、平針中7番千葉のサイドシュートが決まったが、直後に、三郷北中の4番海老原のロングシュートが決まり、その後、10分間、速攻、セットDFで、互いに得点を重ねる一進一退の攻防戦となった。しかし、11分に平針中7番千葉のステップシュートが決まり、平針中ペースとなり、三郷北中の反撃も及ばず、最終的には23対14で平針中が決勝に進んだ。

▼決勝

平針中 28 (14 - 5、14 - 8) 13 西條中

8番を中心としたスピードとパワーのあるセットオフenseが特徴の平針中学校と、3番、5番の長身選手を中心とした粘り強いセットオフenseが特徴の西條中学校の対戦となった決勝戦。お互いに相手の攻撃を如何に抑えるかがポイントとなった。

前半立ち上がりはお互いに動きが硬く、パスカットの連続やシュートミスが目立った。5分過ぎから平針8番の連続シュートが決まって、平針は徐々にペースをつかみ始めた。ポストやサイドシュートが決まる平針に対して、西條は動きにキレがなく、得意のロングシュート、ポストシュートが決まらないためなかなかペースがつかめなかった。10分過ぎから平針の攻撃は力強くなり、多彩なシュートで得点を伸ばした。西條は平針の堅いディフェンスを崩せず、14対5で前半を終えた。

後半もペースは変わらず、西條が懸命に攻めるが、シュートミスもあり、結局平針のディフェンスを崩すことができなかった。平針は最後まで力強いプレーが衰えず、28対13と点差が開いて試合が終了した。平針の攻守にわたる力強さが目立った決勝であった。

AMOK
Enterprise co., Ltd.

旅のはじまりはエモックから
株式会社エモック・エンタープライズ

●東京本社

東京都港区西新橋1-19-3第2双葉ビル2F
TEL 03-3507-9777 / FAX 03-3507-9771

●大阪支店

大阪市中央区淡路町4-3-8タイリンビル7F
TEL 06-6203-7999 / FAX 06-6203-7991

団体旅行

・社員旅行・海外スポーツ遠征
・視察旅行・国内スポーツ合宿
・研修旅行・貸切バス
・周年旅行

教育研修旅行

・修学旅行
・語学研修・ホームステイ
・各種体験学習
・ゼミ・各種合宿

イベント

・スポーツ国際大会手配
・表彰・記念式典
・セミナー・パーティー
・国際会議

業務渡航

・海外航空券手配
・海外ホテル手配
・査証手続き
・トラベルサポート

訪日外国人旅行

・公官庁主催招聘プログラム手配
・訪日されるお客様に合わせたプラン

観光庁長官登録一種旅行業1144号 (社)日本旅行業協会(JATA)正会員 <http://www.amok.co.jp>